

会 議 録

1 会議名

平成29年度 第7回高田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 諮問事項 (仮称) 旧第四銀行高田支店の設置について(答申) (公開)

(2) 自主的審議事項 上越地域医療センター病院の改築について (公開)

3 開催日時

平成29年9月25日(月) 午後6時30分から午後8時35分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第一会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：西山要耕（会長）、高野恒男（副会長）、吉田昌和（副会長）、
青山捷一、飯塚よし子、浦壁澄子、大滝利彦、小川善司、北川 拓、
小竹 潤、佐藤三郎、澁市 徹、杉本敏宏、高橋浩輔、松矢孝一、
宮崎 陽、山中洋子、山本信義、吉田隆雄
- ・ 上越地域医療センター病院の現地での改築を求める町内会 代表5名
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、槇島係長、小林主事

8 発言の内容

【槇島係長】

- ・ 小林委員を除く19名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 同条例第8条1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【西山会長】

- ・ 会議の開会を宣言

- ・会議録の確認：西山会長、北川委員

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【西山会長】

「議題等の確認」について、質疑を求めるがなし。

—諮問事項（仮称）旧第四銀行高田支店の設置について（答申）—

【西山会長】

次第3報告（1）「諮問事項（仮称）旧第四銀行高田支店の設置について（答申）」、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料No.1により説明。

【西山会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

—自主的審議事項 上越地域医療センター病院の改築について—

【西山会長】

次第4議題（1）「自主的審議事項 上越地域医療センター病院の改築について」、に入る。

本日は、9月8日に高田区地域協議会へ要請書を提出いただいた「上越地域医療センター病院の現地での改築を求める町内会（以下「求める町内会」と記載。）」の代表者5名から来ていただいた。

求める町内会の皆さんから、上越地域医療センター病院（以下「センター病院」と記載。）の改築に関し、考えを聞かせいただきたい。

説明を求める。

【求める町内会①】

地域の町内会を代表し、説明する。

既にニュースとして1号、2号で経過を説明し、本日ニュース3号と委員宛ての文書を配布した。

市が昨年「上越地域医療センター病院の改築に向けた在り方検討委員会（以下「在り方検討委員会」と記載。）」を設置し、非公開で病院関係者、市職員代表のほか医療コンサルタントの知見を入れて、今後のセンター病院の在り方について検討し、今年2月に上越地域医療センター病院の改築に向けた在り方に関する報告書（以下「在り方に関する報告書」と記載。）が公表された。

その中で病院そのものの機能としては、診療機能や介護福祉、まちづくり、ICTの活用、職員確保の問題、経営の問題、新病院の整備の問題について、角度を変え検討され、報告書が提出されたことから、私どもも手にした。

問題なのは、現在のセンター病院は利用者に分かりにくいいため、現在地で改築した場合にアクセス道路の改善が必要だと。市は業者による簡易調査を行ったが、在り方検討委員会では建設場所を明確にしていない。現在地で改築することは不可能ではないとしながら、しかし整備は大変困難であると。だから現在地からそれほど遠くない場所であることが重要だとか、用地取得のことにまで触れていることから、私どもは既に移転ありきではないかという捉え方をした。

非公開だったことから、報告書を読むまで経過が分からなかった。これを受けて3月、私ども15町内会の会長が集まり協議をし、センター病院の改築にあたっては現在地だという要望書を市長に手渡し、市長とこれまでの地域の歴史的経過、地域の高齢化等の問題をいろいろ意見交換した。

市長からも前向きに受け止めてもらい、今後の「上越地域医療センター病院基本構想策定委員会（以下「基本構想策定委員会」と記載。）」に、私どもの意向を伝えていきたいという旨の回答があった。5月1日号の広報上越で、その基本構想策定委員会の公募市民委員2名の募集が始まったことから、私どもは地域で相談し地元の意見を反映したいと各町内から計5名の代表が応募し小論文を提出した。6月12日に通知があり、他からの2名を採用したということで、選定の経過や基準が明確にされないまま、私どもの5名が全員不採用になったため、市に懸念を表明した。

そこで15町内会が5月、これでは行政サイドで一方向的に進められる危険性があ

るということで、署名運動で住民の意思を確認しようと15町内会で一斉に署名活動を展開したところ、第一次集約で5,028名の町民から署名を得た。7月18日に市長、市議会議長、センター病院長に面会し署名簿を提出した。

後でわかったことだが、既に7月7日に和田地区振興協議会から市長へ、センター病院を上越妙高駅周辺へ移転することと新しいまちづくりへの支援を求める文書が提出されていた。そこにはコンサルタントが作ったような、上越妙高駅を中心にセンター病院と周辺施設が配置された図面、さらには現在のセンター病院の跡地にアパートや個人医院、駐車場や福祉施設を設置するような図面が付けられていた。これが後になって分かり、この図面が手に入った。

私たちが和田地区の文書を分析すると、コンサルがまとめるか行政が多少関わらなければ分からないような内容まで含まれており、おかしいのではないかと市に指摘した。

そのような経過を経て、7月19日に第1回基本構想策定委員会が10人でスタートし、その後9月22日の第2回基本構想策定委員会では、センター病院副院長が新たな委員に加わり合計11人で開かれた。

私たちは町内会長全員で傍聴した。中央病院やセンター病院の院長から、在り方検討委員会で構想を検討したことは分かるが、建設予算や建設場所が決まらない中でセンター病院をどうするか議論するのは順序が逆さま、市のしっかりした方針が必要だと指摘する発言を、傍聴しながら確認している。

その後、私どもはそれらの疑念を晴らすため、8月9日に市地域医療推進室の室長や担当を招き、地域で意見交換会を開きかなりの議論をした。そこでは、基本構想策定委員会のスケジュールとして11月に建設場所を検討し、2月に高田区地域協議会に諮問、3月に基本構想を固め、3月議会に補正予算をかけ具体化させると示された。在り方検討委員会の方針がそのまま基本構想策定委員会に受け入れられ、話がかかなり急ピッチに進んでいると傍聴していて感じた。

その中で私たちが一番問題にしたのは、25億円あったセンター病院の企業債が、28年度決算でまだ16億7067万円残っていることが明らかになったこと。私どもは、その点について市の財政計画と整合が取れているのか指摘した。

また、6年間黒字経営を続けた医師会が3月で指定管理から手を放すことになっ

たので、今後自立することに関しさらに検討していきたいということで、この時の話し合いは終わった。

9月21日の市議会で、地域の議員からこの問題を取り上げてもらった。経営形態は、民間委託、独立法人、指定管理のいずれか、法人の立ち上げを含め市の考えを明らかにするように質問したが、翌日に基本構想策定委員会が予定されていたことから、市長の具体的な答弁を引き出すことはできなかった。健康福祉部長からは、16億7千万円の借金は繰り上げ償還するという答弁が本会議でなされた。

その第2回基本構想策定委員会で一番問題だったのは、市役所会議室で開かれたこの会議が公開でありながら傍聴者数に制限が加えられたこと。私どもは10名までと、和田地区や金谷地区も制限を加えられた。もっと広く公開した形で開催するよう事務局に伝えた。

そこで一番気になったのが、新しい病院の診療機能のうち救急医療についての議論。市役所そばにある休日夜間診療所を、これを契機にセンター病院に併設したらどうかという提案があった。これをめぐり委員の石橋センター病院長から、これまで市では休日夜間診療所はまだ老朽化していないと説明してきたのにこのタイミングで新病院と一緒に議論するのはおかしい、病院が人と金の責任を持つのは負担が大きすぎる、休日夜間診療所は現在医師会に依頼し医師の輪番制で開設しているのだから、それはおかしいと発言があった。

また渡辺委員から、現在の休日夜間診療所は市の中心に位置しておりここから動くのは大変だと、頸北や直江津などのことを考えると仮に和田、金谷、現在地に移ってしまっては困る、市民のことを考えれば市の中央部に置くべきだという強い意見があった。また、他の病院との関係も大変だという指摘もあり、併設されては職員負担が大きくなることから、畠山座長がこの提案を退けることでまとめた。

リハビリテーション機能の問題は、改築時の機能の問題や事業費への影響から、先進地視察をするということになり、保留になった。

今回明らかにされたが、新年度からセンター病院に地域包括支援センターが併設されることになり、65歳以上の在宅医療や在宅の介護支援をすることが決定した。私どもの地域15町内に、4町内が加わった19町内を担当する方針が確認された。それを含め、私どもとしてはどうしても現在地で改築してほしいとお願いしたい。

ここは16年前宮越市長の時に福祉ゾーンとして計画されたところであり、青田川を挟んで南に複数の福祉施設が設置されている。一帯を福祉ゾーンにしようと市が2千坪の土地を購入してあり、民地2千坪を合わせて1万4千坪あるので、ここで改築するのは可能だという主張をこれからも続けたいと思っている。地域協議会の皆さんからも理解を得たい。

【西山会長】

ただ今の説明について、質疑を求める。

【松矢委員】

今年3月30日と7月18日に市長と面会した際に、市長はどのようなことを発言したかそのやりとりをもう少し教えてほしい。

【求める町内会①】

在り方検討委員会に専門家、医師、全国の病院コンサルタントが入り検討を進めてきた。今年度、基本構想策定委員会でベッド数、診療科を聞いて整備したい。今年度の基本構想の中で、国から派遣される病院づくりの専門家から意見を聞く必要があると思っている。これまでの修繕工事で借金が残っている。リハビリばかりでは若い医師が来ない、高度な医療も必要、どのような診療科目とするかを詰めていきたい。上越地域医療センター病院が、地域の皆さんによる応援隊で支えられていることを実感している。基本構想策定委員会のメンバーを決める時に、地域の方にも声がけをして進めていくので案内したいと考えている。改築により現状より大きくなると、看護師や医師のケアができない。新しい場所や現在地などいろいろな意見が出たと思うが、建設場所については最終的には決めていない。

健康福祉部長からは、現在地の場合は高架橋を造れば工事はできないことはないが、平面として見た場合に建て替えが困難。現在地で建て替える場合は、アクセスが非常に悪く改修が必要だということで、在り方検討委員会では現在地を定めてはいない。

私どもの責任で、しっかり地域の皆さんに説明したい、ということが市長とのやりとり。

【高野副会長】

今年7月18日に市長に面会し署名簿を渡した時、市長から「皆さんの意見を反映

させていただく」ということだったそうだが、みなさんはこれをどのように受け取ったか。

【求める町内会②】

市長から反映ということで、私どもは現在地での改築をある程度認めてくれるとわずかな希望を抱いたが、実際はいろいろなことが耳に入ってきており何とも言えない気がした。

【西山会長】

他に質疑を求めるがなし。

この件は、高田区地域協議会の自主的審議事項としており、このあと検討するが、市への意見書には、この病院の改築場所が現在地ではなければならない理由を付ける必要がある。

求める町内会の皆さんが考える、病院の改築場所が現在の南高田町でなければならないというポイントがあれば聞かせてほしい。それがこれからの議論の一番の柱になる。

【求める町内会②】

どこも同じだが、特に高田南部地域は高齢者がどんどん増えて、南新町あたりは大変多く、免許を返納する人も増えていることから、病院が近間ないと安心して暮らせない。すぐ近くにセンター病院があるから、安心していられる。

また、十数年前から南高田町の人たちと病院職員が、共同で盆踊り大会など地域に密着した行事をしたり防災訓練をしたりしている。いつも地域密着型で本当に仲良くしている。それもよいと思う。

【求める町内会③】

残念ながら今年の民謡流しは中止になってしまったが、この始まりは、町内からの参加者が少なくなってきたので、病院長に参加を呼びかけたら、他の病院でも出たからうちの病院でも出たいと思っていたとのことで、すぐに話がまとまり翌年から参加してもらえるようになった。約70人の参加者で大民謡流しは盛大に盛り上がった。

また、患者の実態は、南部地域からの患者が28%強、金谷と和田は数%という受診実態が証明されている。

本当の実態の声としては、町内のお年寄りがシルバーカーを押してでも行ける、ひざが悪い方がつえを突いてでもすぐに行ける病院があつて必要。万が一遠くに移ると、そのような方たちは少し具合が悪くなってもタクシーで行くのを我慢してしまい、症状の悪化につながってしまうことが残念。これがデメリット。

受診する患者数が多い現在地で、センター病院長が考えるとおり、病院のためではなく患者のための病院として、是非現在地で改築をお願いしたい。

【求める町内会④】

上越地域医療センター病院の位置は、現在地にあることが最も重要だと考える。大きな病院は関川の川向うにある。もし大規模災害が発生し救急救護が必要な時に、それに対応できる病院が最低限市街地のはずれにないと、災害時の救急救護もできない。

川向うの大きな病院に行こうとしても、災害時には不測の事態で橋が落ちた場合には行けなくなる。そうすると、地域の端の方にでも病院があれば重要な拠点になると思うので、是非今の場所で建て替えをお願いしたい。

【杉本委員】

宮越市長の時に、市が国立病院を引き受けた際、空き地になっていた民地を買った。その時の議論ではここ全体が福祉ゾーンという形で、北側の道を広げられないので南側へ川を挟んで道を作りそちらを入り口にするという説明があった。そのようなことを、市職員はみな忘れてしまったのだろう。

【求める町内会①】

市の担当者と町内会長で現地調査をして、現地を全て見た。その時に、今の話が出た。今の話のとおり、和田地区の福祉施設の裏の青田川に橋がかかり、それが病院の道路になると説明があったので、市の担当者は承知しており、今もそれは生きている。

【杉本委員】

ここは福祉ゾーンで、南にある福祉施設と病院がセットになるから、それが成り立つという話だった。

【求める町内会①】

そのとおり。

【杉本委員】

もともとそのような発想で進めてきたわけだから、それを今になってころりと変えては駄目だと思う。

【澁市委員】

求める町内会の皆さんが29年7月に配布したチラシに、平成25年度の上越地域医療センター病院利用患者実績が書かれており、高田地域からの外来患者、入院患者がともに全体の約3割ということで一番多い。このデータのより新しいものはないか。

また、改築に関して町内会の方が市へ質問したり要望したりしていることは分かったが、市が公聴会のような形で利用者や地元の皆さんから意見を聞いたことはあるか。

【求める町内会①】

私たちも、患者実績数は平成25年度から4年も経過しているので、新しいものを出してほしいと言っているが出したがない。これはやはり高田地区の利用者が増えているのだと思う。平成25年度で高田地区の人が32.5%、今は高齢化しておりもっと増えているはずなので、これからも更に求めていきたい。

公聴会の件は、私どもも地域の声を聞いてほしいということを市の担当に言っている。できれば今年の基本構想策定委員会11名の中で、地元の意見を聞く機会を作してほしいということを事務局に話している。取り上げられるか分からないが、地域協議会と同様に私たちの話を聞いてもらえれば、本音を伝えられるので要望している。

【青山委員】

今年3月に出された、在り方に関する報告書の建築場所の項目に、「①現状」では「コンビニエンスストア、スーパーマーケットなどが立地している」としながら、「②今後の方向性」で「カフェやコンビニ、レストラン、本屋の設置などの検討を必要としましたが、現在地では民間活力による整備は困難であると考えます」とある。現在は病院の前にコンビニもできているし、学校なども近い。だから移転する必要は全くないと言えると思う。

【吉田隆雄委員】

明治41年に、地域の皆さんが衛戍（えいじゅ）病院として受け入れ、地域の方々が協力してきた。この地域の皆さんは、病院の受け入れ方が非常によく分かると思う。他の病院がある地域もそうだと思うが、皆さんは明治41年衛戍病院を受け入れてきた。そのような地域住民の受け入れる心の準備は、他の病院に勝っているのではないか。

また、私は将来的に上越市と妙高市は一緒になると考えており、その真ん中にあるという説明をしたことはないか。

【求める町内会①】

後者の話を出すと、和田地区の上越妙高駅が妙高市と上越市のちょうど中間になるという話につながってしまう。

【吉田隆雄委員】

それを補強するために、地域の皆さんが衛戍病院をこれまで受け入れてきたというのを。

【求める町内会①】

陸軍病院と国立病院で105年の歴史があり、それを地域が支えてきたという自負はある。5千人を超える署名が短期間で集まった。署名は公表されるのだから大変な重みがある署名だと思っている。簡単にこれだけの署名が集まったことが、私たち地元の気持ち、自負を裏付けていると思っている。

【西山会長】

求める町内会の代表5名の皆さんからの貴重な意見は、今後、地域協議会の中で生かし、必要なものは中に取り込む。

5名の代表者から来ていただいたことに感謝する。

—求める町内会代表者 退席—

委員による審議に入る。

自主的審議は、センター病院が現在の場所にあることで、高田区の皆さんがどれだけ助かって、メリットがあるか、だから高田区に必要なのでということを中心に整理する必要があると考える。

なお、今回は杉本委員からの自主的審議に係る提案書と、求める町内会からの要請書が提出され、どちらも取り上げることになった。この2件を合わせて審議することを諮り、委員全員の了承を得る。

また自主的審議するにあたり、現在の場所に改築するという高田区地域協議会全体の考えとすることについて、意見を求める。

【山本委員】

私の話を杉本委員にまとめてもらい、前回、理由をそれぞれ述べたが、その理由からすると、現在地よりもっと市街地寄りでなければ、この必然性は確保できないのではないかと考え発言した。したがって過疎化や高齢化を考えれば、現在地に限定するのは納得いかないとはまでは言わないが、ピンとこない。

また、まちづくりや中心市街地などを考慮すれば、もっと市街地の方へ持ってこなくてはいけないと思う。今の場所がよいのかどうか、それを含めて検討すべきだと私個人としては思う。

【小竹委員】

現在地ではない場合も、車で5分程度の距離なのでさほど遠くへ行くわけではないと考えている部分がある。ただ、署名が5,028人分集まっており、高齢者がつえやシルバーカーで行ける距離が大事という話を聞き、なるほどと思い、今、考えが揺れている。

この後の議論の中で、絶対に現在地でなければ駄目だとして進めるよりも、新しく上越妙高駅の方に移動することで、駅が近くて行きやすくなったという意見も増えるかもしれないということも考えながら、議論に参加したい。

【西山会長】

高田公園オーレンプラザの諮問の時には、高田区の中の駅前と高田公園の2つの最終候補地について議論した。高田公園がよいという委員と駅前はよいという委員、頭に描いていることが違う委員同士で話し合いをしても、かみ合わなかった。

先日の市地域医療推進室の説明では、建設候補地は決まっていないということだったので、公的には何も示されていない。ただ聞くとところによると、上越妙高駅周辺と上越高田インターチェンジそばの山麓線周辺、現在地の3か所と言われている。病院の移転先としてその3か所の議論をするのは、高田区地域協議会の仕事ではな

いと思う。

高田地区にセンター病院が必要で、現在地が最良の場所だと考えて進めるのなら、高田区の自主的審議として当然の形。これに対し、和田区、金谷区、高田区のいずれがよいのかということは、ここで議論する対象にはならないと、私は考える。

前回、杉本委員から現在地に改築という発言があり、先ほど説明をいただいた求める町内会も現在地に改築することを求めていることから、それに基づき議論するならよいが、それぞれバラバラで考えていてはまとまらない。

地域協議会は、個人の意見はいろいろ持っていて、自主的審議事項にしたと同時に20人の委員総意の意見となるので、一本化してもらえば、議論に入れる。

【松矢委員】

初めから改築場所を現在地にして議論を進めるのは、横暴のような気がする。中には和田地区や金谷地区の方がよいという委員もいるかもしれない。まずその議論をしたうえで、現在地に改築するという委員が多ければそれで進めるべき。

【西山会長】

提案者の杉本委員に意見を求める。

【杉本委員】

松矢委員の意見のとおりでよいと思う。

高田区地域協議会は、高田区のことしか議論できないような話が、頻繁に行政側から出される。ここで、高田区ではない場所に改築という意見が出てくることは、そのことを打ち破るためにも大事だと思う。

高田区地域協議会の、高田区ではなく別の所に移転してもよいという意見は行き先の議論。行政に言わせると、やめてくれという話だと思うが、本当に病院を良くしようとしたときには別の場所がよいとなるかもしれない。

だからその点も含め場所を現在地に限らずいろいろな議論をして、そのうえで採決し議論を進めればよい。別の件が出たら、附帯意見にすればよい。

【西山会長】

では、改築場所についての議論を行う。時間をかけていられないので、意見のあとすぐに採決することを諮り、委員全員の下承を得る。

山本委員、小竹委員を除く委員に意見を求める。

【飯塚委員】

予算がなく借金が16億円もあるのに、なぜ新しい場所へ移さなければならないのか。それぞれの場所でいくらになるかという建設予算が出ていないが、借金があるのでそんなにお金はかけられないと思うので、今の場所がよいと思う。

【杉本委員】

20年近く前、宮越市長の頃、ここを福祉ゾーンにするという市の計画があり、全体がそのように進んできている。もし病院をここから別の場所へ移すなら、ここを福祉のゾーンにするのはやめにするということが先になればおかしいと思う。それがあつた上で病院を移すという話が出てくるのならよい。先ほどの話では福祉ゾーンの件は生きていくということなので、病院と施設をセットで考えられているものの片方がなくなったらゾーンにならない。

当時の議論でも、南新町のアパート群が非常に大きなウェイトを占めている。この病院を考える上では、あのアパート群も含めてセットという感覚になっている。

【大滝委員】

3つの地区が上がっているが、それらを比較するなら現在地以外の場所も検討する必要がある。しかし、ここが福祉ゾーンになっており、今の施設も病院があるから建つたわけで、逆に言えば病院がベースになって施設が造られたのに、病院がどこかへ行ってしまうのはどうかと思う。

他の地区を落とすために比較するならよいが、そうでなければ現在地以外のことを出しても価値はない。

【北川委員】

医療ゾーンや福祉ゾーンが計画されて、今の施設がここに出てきた。

あと、大きい道路が計画されていると思う。在り方に関する報告書には、現在の場所は不便で分かりにくいとあるが、大都会と異なり人の入れ替わりが少ない地域にある歴史ある病院なので、分かりにくいということはないと思う。

【浦壁委員】

今回は、自分や家族にとって便利な場所への改築を望んでいるだけ。だから、現在の場所と他のどこかに固定した選択の仕方は公平ではないと思う。地域をあっちかこっちかで二者択一とすることはいかがと思う。

【西山会長】

ここまでの意見を整理する。

センター病院の移転先を現在地にこだわらずに議論するか、現在地に改築することとして議論するか、二つに整理できる。

この2点で採決することを諮り、委員全員の了承を得る。

移転先を、現在地にこだわらずに議論することに賛成の委員に挙手を求める。

【山本委員】

先ほどの私の意見は、高齢化と過疎化が進む中で、他の地域へ行ってもよいということではなく、高田の中心市街地を含め高田地域に誘致をしたいという意図なので、2点ではなく3点になる。

【西山会長】

移転先は、今は議論しない。移転してもよいか、現在地で改築かということによって理解を。

【松矢委員】

今の場所で建て替えるか、他の場所か、で。

【西山会長】

今の場所か、他に移転してもよいか、で採決する。

【小川委員】

高田区の、将来的な発展を見据えた議論を。

例えば新しい病院に、有名な大学病院の先生が来れば長野、富山、金沢から患者さんがくる。そのようなことも踏まえ、上越の発展のためになるか。その条件がもし整えばそれがよいし、整わなければ高田区の高齢者に効果が期待できるかどうかというところまで考えなければならない。

【西山会長】

今回は病院のシステムについての自主的審議ではない。

11月に建築場所についての基本構想策定委員会が開かれるため、意見書を提出するならそれまでにとということで、1か月に何度も会議を開き議論している。

今の話し合いでは、現在地に改築をとという意見が多く、他の場所でもよいという意見もあった。病院の内容ではなく、まず場所について諮りたい。病院の機能について

は、あとで出てくる。今は建築場所について、話し合いの土台をどこにするか採決したいがいかがか。

(はいの声多数)

【小川委員】

条件による。

高田区に置くべき条件を、更に上回った条件が出てくれば、他の方がよいとなるかもしれない。

【西山会長】

仕方ない。

【小川委員】

それが無理となると。

【松矢委員】

小川委員の意見は分かる。では、具体的な場所を。それがないと空論になる。

【小川委員】

高田区も含め、将来的な発展にというなら上越妙高駅の横。

【松矢委員】

それなら移転ということ。

【小川委員】

そのための条件が整ったらという条件付きになる。

【西山会長】

まずは場所をどこに決めるかについて、採決するがよいか。

【杉本委員】

三つも四つもある中から挙手するのではなく、現地で建て替えるか否かで採決を。

【西山会長】

それでよいか諮り、委員全員の下承を得る。

現地で建て替えることを、これからの審議の基本として進めることについて採決し、賛成17名、反対なし、意思表示なし1名により、現地で建て替えることを審議の基本とすることに決する。

【西山会長】

再開する。

杉本委員の自主的審議に係る提案書と求める町内会の要請書を合わせ、一つにして議論していくことが決まった。

また、現在の場所に改築するというのをベースに自主的審議することが決定した。それを頭に置いて議論を。

意見書を提出する場合は、センター病院が現在地にあることで高田区の皆さんがどれだけ助かり、メリットがあるか、だから高田区に必要だという議論を。

以前からの約束だったなどということは補助意見にはなっても、私たちの生活に絶対必要だという柱がないと地域協議会の意見書にはならない。

今日、意見書まで決めることは無理なので、意見出しをしてほしい。残り時間が1時間を切っているので、次回は今日の意見をまとめて少しずつ進めたい。

意見を求める。

【北川委員】

二十数年前にそれなりの計画を立てるにあたり、時間も予算もそれなりにかかったということが無駄にしてほしくない。

また先ほど求める会の代表が言われていたように、お祭りや防災訓練など病院と地域との間に信頼関係ができ上がっているところがとても重要だと思う。

【小川委員】

前の会議から今日まで、いろいろな人に会ってこのことを聞いてみた。歩いて行ける場所、自転車で行ける場所に病院がある方がよいという意見が多い。

市は高田へ人を入れようという立地適正化計画の説明会を市民プラザで開いた。郊外の車でなければ行けない場所に持って行くのではなく、その計画のとおり、高田区にそのような病院を置くことは大変好ましいと思う。

先ほど言ったように、有名な大学病院の先生が入ってくれば上越妙高駅の近くに建てても効果を発揮するからよいのだが、それは無理な気がするので、それならこの地域に建てることに賛成する。

【浦壁委員】

求める町内会に入っていない町内会も、たくさんある。その町内会の意見は集約されていないのか。

【西山会長】

私の町内会の会長によると、意見集約があったそうだ。でもここに町内会名は載っていない。ある程度の町内会に意見を聞いているとは思いますが、ここでは詳細はわからない。

【浦壁委員】

自主的審議を進めるに当たり、もう少し多くの町内会の意見を意見書に入れれば強いものになるのではないかと思う。

【西山会長】

前日も公聴会で市民の意見を聴いた方がよいという意見も出たが、時間的に難しいことから、私たちが意見を出していくということをお願いしたい。

【松矢委員】

杉本委員の言われる、宮越市長時代にそのような構想があったということは大切だと思う。その意見を基礎にして、その上に予算的なもの、高齢者が多いこと、地域のつながりが強いこと、災害時に病院が必要なことと書いたらよいのではないか。

宮越市長時代の構想が生きているなら、なぜ勝手に反故にするのかということも言える。

【西山会長】

高田駅の西口の計画も、生きていと言われているけども、結局動きはない。

【松矢委員】

そのような構想があったのではないかと。そのような構想があって、今まで進んできたことは大切なことだと思う。

市長交代により、その構想を反故にされては困る。

【大滝委員】

現実に、ここに複数の福祉施設が建っている。病院があるから建った。病院がなくなれば閉鎖する可能性も十分ある。

【西山会長】

その考えを入れないわけではないが、地域の住民が生活するのに病院がどれだけ必要かという意見が主体になる。それを入れずに意見書を提出しても、受け入れてもらえない。まずは、皆さんから地域住民にはどうしても必要だという、柱になる部分の意見をいただきたい。

【高野副会長】

地域に与える影響ということなら、センター病院の患者実績を平成25年から去年まで数字で示すことが一番大事だと思う。ただ高齢化と言っても、どこも高齢化している。これだけの人がこの病院に行っているということが、地域に与える影響を表わしている。この数字を示したらよいと考える。

【青山委員】

求める町内会の資料に書かれた3点、センター病院と地域との連帯を大切に、現在地には1万2千坪の市有地がある、市の財政から移転用地購入はやめて、これでよいのではないか。

【澁市委員】

センター病院の利用者数のデータが、平成25年度のものだけというのはおかしい。少なくとも27年度まではあるはず。これが出てこないのは何か理由があると思う。会長名で最新のデータを要求したらよいと思う。

【西山会長】

聞いてみたい。

【澁市委員】

絶対に必要。地域の人が、この病院をととても多く利用していることが、それで分かる。

また、杉本委員が言われたように病院の近くに市営住宅があるが、高齢者がかなり入居しており高齢化が非常に進んでいると思う。市のホームページにあるデータを見れば、町内会別の年齢、男女の人口が分かる。それを集計すれば、この病院周辺の地域は高齢化が進んでいることが分かる。だから移転されると困る、天気が良い日にみんなが歩いて行ける病院が必要だと打ち出せると思う。

同じく杉本委員が言われた、宮越市長の時の計画は、都市計画か何かに反映されていないのか、確認すべきだと思う。福祉ゾーンとされたことで、民間の福祉施設も立

地しているではないか、移ってきた市民もかなりいる、いまさらこれを変えるのはいかがかと。そのような証拠を集める必要があると思う。

そうすると周りに住んでいる人は、この病院に頼っているということが言える。これから、特に団塊の世代が75歳になる今後10年以降、絶対に必要だということが言えると思う。

予算面、災害時の件、コンパクトシティなどについては、補足的に加える。これが私の考えるストーリー。

【高橋委員】

私の父は4年前に亡くなり、その前1年7か月入院生活をした。最初は労災病院に入り、中央病院へ転院した。急性期病院である中央病院で治療をして、ある程度症状が落ち着いたら回復期とリハビリ期はセンター病院でゆっくり時間をかけて、という流れだったが、その前に亡くなってしまった。病院にはそのような役割分担がある。

そのような機能を分けた病院が、以前高田区には2つあったが、急性期病院の中央病院が川向うへ移転してしまい、残ったのがセンター病院。地域住民からも頼りにされて、交流もある。なおかつ、急を要する治療は中央病院、その後はゆっくり高田区にあるセンター病院で回復とリハビリができる。

我々は街なかで商売をしていて、時間がない中で家族の面倒をみるという実際の生活がある。病院が高田区から郊外へ出てしまうと、それがきつくなる。

高齢者夫婦だけの世帯でどちらかが入院しても、回復期はセンター病院でとなれば、病院が近くにあるので歩いてでも行けるし距離も遠くないので安心。

そのような病院の役割分担、機能分担という面からも、高田区にセンター病院を置くべきであり、他への移転は考えられない。

また、今ある場所で建て替えることで、何か不都合があるのかという気がする。以前から福祉ゾーンという構想があったなら、政策として継続してもらわないと困る。周辺の住民も地域も、そのように協力しているので、新しい話が出てすぐに移転してしまったら継続性がなくなる。移転は禍根を残すことになる。

受け入れる方はよいかもしれないが、出て行かれた方は先々まで引きずる。市内で対立の火種を生むかもしれない。だから同じ場所に建て替えるのが望ましい。

外来患者も入院患者も、高田区の方が圧倒的に多いので、最新のデータを出してもらい、数字からも推してもらいたい。

【杉本委員】

金谷地区でも誘致というが、中通町や上中田も金谷地区で今のセンター病院を頼りにしている。特にインターの周辺に移ってしまったら、この人たちも困る。金谷区の中で対立を生む原因にもなると思う。中通町は求める町内会に入っていないが、本当は入れるべきだと思う。

患者数の最新データは絶対に必要。最新のデータを基にする必要がある。

衛戍病院以来100年もの間、この地域は病院と共に歩んできた。それを今になって移転ということになれば、私たちの生活をどうしてくれるのかという話になる。

【高野副会長】

まとめると、地域で支えることで地域が安心だということに行きつくと思う。

それと、患者数の実績で推していけばよいというのが、私の考え。

【西山会長】

交通の利便性が向上している中で、病院へは大きな道路ですぐに行けるようになったと思う。だから、センター病院を現在地に設置することがよいのかよくないのか、どちらだろうという疑問がある。

高田区など住民が多い所に病院があり、他に中央病院へは車で行けるなら、これから増えると思われる、街なかの体が不自由な方や車に乗れない人のための病院が、住民が多い所にあってもよいという感覚はある。

まちの活性化は含めずに、リハビリの機能や地区別の患者数を意見として入れる。

上越妙高駅のそばに建てても、新幹線で通院する人がどれだけいるかということもある。

【小川委員】

市が市民プラザで説明会を開き、大勢の人が聞きに行った配置適正化計画では、今までは郊外へとまちを広げる傾向にあったものを、今後はまちの中に移ってもらうような施策に変えるということだった。私は質問で、どのような施策で移転を促すのか、富山市のように固定資産税を優遇するのかと聞いたら、まだそこまでは考えていないが、社会資本が整ったまちの中に郊外から移ってもらうように考えていくとい

うことだった。

そう考えると、大事なセンター病院が外に出て行き、高田区が薄っぺらになっていくことはその方針に反する。市へもう一度確かめてほしい。

【高野副会長】

私も質問したが、コンパクトシティというのは、高田の中心に何でも持ってくるのではなく、ポイントごとに核を作りそこに地域のまちをつくるのが大事だということ。無限に拡大していくのは駄目だということだった。

【小川委員】

そのとおり。

市の説明では、高田の中へ外の人を入れるという方向へ持って行くということだった。市へ確かめてほしい。

【西山会長】

分かったが、ここでコンパクトシティや政策の話をする、病院からずれる。

【小川委員】

病院は大事なポイント。

【西山会長】

分かるが、高田の町なかに人を移すというと話が大きくなり、病院のことがぼやけてしまう。地域との交わりなら、昔からの交わりということで強調すればよい。これからでも、まちはどこでも作れるしどこでも発展するので、今ある所が有意義でいかに良いかということ議論しながら、だから現在地ではなくては駄目だとするしかない。

【杉本委員】

現在の病院の場所には、市有地1万2千坪に民有地を含めると計1万4千坪の用地があるという話だった。移転する側の議論の中では、今の場所は狭いもっと広くしたいという話になっている。例えば1万5千坪にしたとして、上越妙高駅の駅前で坪10万円なら15億円。今16億円の借金があるのに、土地取得費用だけでそれだけかけるか。15億円の土地を買い、建屋に何十億円というお金をかけることが、今の財政状況で可能かということも含めてよいと思う。

【高野副会長】

それも大きなポイントである。

【小竹委員】

市有地と民有地を合わせて1万4千坪あり、今の場所で定着しているのだから、移転の話がなぜ出てきたのかと思う。

在り方に関する報告書に問題点として、現在の場所が不便で整備が困難と書いてあるが、具体的にどのくらい整備が困難なのか。移転の話が出てくるということは、その利点がいくつかあるからだと思うが、具体的な利点は。それらが見えてこないと話が進まない。

【杉本委員】

トキめき鉄道の鉄橋が青田川にかかっている。この鉄橋近くに橋をかけて、入口にするというのが当時の構想だった。今と、正面、裏が反対になる。そう見ると広い道路から入るので、交通は不便ではない。

建て替える場合に不便だというのは、1万坪で考えているから。市の2千坪、隣の民有地2千坪を考慮していない。1万坪で考えると確かに難しいが、4千坪が使えるとなれば状況は全く変わってくる。

【高野副会長】

高田地区でなくてはならないというポイントを。

【小竹委員】

2年くらい前に、センター病院の改築は決まっていて、200億円かけて整備するという話を聞いた。上越妙高駅あたりの土地を自分で過去に調べたことがあり、確か坪15万円だった。事業費は200億円あれば実際どうなのか。全額市が負担するのではなく、国などから補助を受けるから大丈夫だという話も聞いた。

【高野副会長】

私は、財源も建設場所の決定に大きな影響を与えると思うし、基本構想策定委員会でもそれが出ると思う。

【西山会長】

市地域医療推進室から、次回こちらに来て現状がどこまで進んでいるかを報告したいという申し出がきている。その時に、質問ができる。それも頭に入れながら議論を。

【松矢委員】

それは10月16日か。

【西山会長】

そのとおり。遅いと思うが。

【松矢委員】

遅い。

【西山会長】

それより前にと調整したが、市の日程上、都合が整わなかった。

地域協議会としては10月2日に視察研修がある。それよりも前では準備ができないということだった。

【高野副会長】

16日でお願いしたい。

【松矢委員】

仕方がない。

今日いろいろ意見が出た。素案でよいから、まとめることは可能か。

【西山会長】

意見書の素案はできない。今回の意見をまとめて、議論していただく。

それを、皆さんで素案にさせていただかなければいけない。皆さんの意見を三役で整理した結果、私たちの意見になってしまうといけけないので、皆さんで話し合いある程度整理してほしい。最終的な文言修正は、私たちが整理する。理解を。

今日出された意見を、例えば地域との関係、昔からの約束、病院機能などに分けて、次回、大切に柱にする部分などを話し合わないと、意見書まで到達できない。

次々回には意見書を完成させないと、移転先の検討が始まってから意見書提出ということになってしまう。あと2回で提出しなければならないので、次回は意見を整理してほしい。

次回は、市からの報告や諮問に時間が取られる。諮問はあるか。

【榎島係長】

高田駅前コミュニティルームの諮問がある予定。

【西山会長】

今日、多くの意見をいただいた。どれを柱にして進めるかについては、意見を表にまとめないと議論できないので、私たちがまとめて皆さんに提示することでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

今月末までに思いついたことがあれば、センターへ文書で提出を。
地区別の患者数を提供してもらえるか、センターから市へ確認を。

—事務連絡—

【西山会長】

「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・協議会等日程 10月 2日(月) 視察研修
10月16日(月) 午後6時30分～ 高田公園オーレンプラザ
11月20日(月) 午後6時30分～ 高田公園オーレンプラザ
12月18日(月) 午後6時30分～ 高田公園オーレンプラザ

・配布資料

寺町まちづくりフェスティバルの案内(寺町まちづくり協議会)

寺町まちづくりだより(寺町まちづくり協議会)

ぬくもり展の案内(高田文化協会)

平成28年度上越市地域活動支援事業事例集

ウィズじょうえつからのおたより

高田公園周辺の雨水排水対策についての参考資料(澁市委員)

【西山会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL: 025-522-8831(直通)

E-mail: nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。